
FF部

BURN

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

FF部

【Nコード】

N0771Z

【作者名】

BURN

【あらすじ】

ふと、口をついて出た嘘。

焦りだったのからか、恥ずかしかったからなのか今となってはわからない。

でもそこから確かに物語は始まった。

雪影町。そこは妖精のいる町。

プロローグ／入部希望者

「よくぞ聞いてくれた、ここはFF部。ファイナルファンタジ
ー？ 違う違う。」

FREE FORTH。ここは自由の力というわけだ。さ
あ入部届を書くといい」



私立雪影高校。地方の自称進学校ではあるが一部の人間は模
試でも全国上位を取ったり、全国規模の賞を取ったりとなんとも
言えない現状の学校である。

そして俺は先週から二年生。現状としては空中浮遊しているよ
うに不安定。

だから、俺は部活を立ち上げることにした。惰性で一年間続
けてきた運動部は辞めた。結局のところ休みたいだけなのかもしれ
ない。

部活を楽しむ心はもうなかった。部員とも仲は良かった。「
一体なんのためにやってるんだ？」という疑問に対し、答えが出な
かっただけなんだ。

FF部。FREE FORTH。自由の力。とりあえず楽しく毎
日生きていこう、というのが方針だ。

部室は現在使われていない小会議室を使わせてもらっている。入
り口から見て正面に大机。そして机の辺に一つづつ椅子が置いて
ある。

そして今入部希望者第一号がやって来た。名は羽美川悠里。
腰まで届くほどのブラウンの髪の毛。丸みを帯びた輪郭とくりくり

した瞳にはどこか幼さを感じさせる。 学年、 いや学園内でも有数の美女だと言って問題無いだろう。

「で、この部活は何をする部活なの？」

透き通るように響く声。右手でブラウンの髪の毛を弄りながら俺に聞いてくる。

「よくぞ聞いてくれた、ここはFF部。 ファイナルファンタジー？ 違う違う。」

FREE FORTH。ここは自由の力というわけだ。運動部や文化活動に疲れた人間の安息地。

己の自由を有効利用し、毎日を有意義に過ごすための部活なのだ。 さあ入部届を書くといい」

机に大きな音を立てて、入部届を叩きつける。 だが羽美川は仏頂面のまま立っている。

少しずつ叩きつけた紙を羽美川へと近づける。 さあ、早く受け取ってくれ。

ようやく言いたいことがまとまったのか口を開いた。しかし、

「どこから突っ込めばいいのやら・・・。 ようするに何もしないワケ？」

実際のところ、考えがまとまったのではなく、ただ呆然としていただけだったのだ。

一瞬の間。言葉に詰まる俺。返答を待つ羽美川。 だがその間が連続した後。

「……………本当に何も無いわけね。 来るだけ無駄だったわ。 さようなら暇人さん」

出口に振り返りながら、少し手を挙げバイバイのジェスチャーを作る。

「ちょっと待てええええええええい。あくまでも、あくまでもだ。それは表向きの理由だ。本当の理由はちゃんとある」

こちらの毅然とした態度に少しは期待した態度を見せる羽美川。本当のことを言おう。理由なんてない。考えなんてない。

「へえ。なら聞かせてもらおうじゃない。あと表向きの活動内容取り繕って偽装してまでする必要なのがあるの？」

「も、もちろんだ。とりあえず部活でするってことは部費が出るってことだ。部費が出るって大事じゃね？」

ああ、一瞬で考えた言葉に相手を納得させることができるわけがない。

「やっぱり：帰らせてもらおうわ」

「目的をまだ言っていないぞおお!!」

「なら早く言つてよ。時間は無駄にしたくないんだから」

まだ羽美川も俺に幻滅しているわけではない。そしてこちらも期待を裏切るわけにはいくまい。

いや嘘を吐いてでも…、ここで部員を逃してなるものか!!

「それはな・・・」

「それは？」

「妖精探しだ」

再び沈黙。……ああ分かってる。誰もこんな事信じない。

嘘の下手さに穴があったら入りたくなる。

「…………面白いわね」

?こいつ、面白いつて言ったか?

「FFってFairy Find 妖精探してところかしら？」

S e a r c h f o r a F a i r y で S F 部の方が正しいで
しょうけど、　まあ目を瞑ってあげるわ
それにこの町には妖精の噂が結構あるしね。ほら、8年前の「妖
精隠し」。　あなたも知ってるでしょ？」

「ああ、俺もそれに巻き込まれた。　当時のことは覚えてないけ
どな」

よくわからないけど信じたのか？

「でも悪いけど、今日は用事があるから帰らせてもらうわ。　入
部届を書いておくから明日からよろしくね」

半ば呆然とさせられている俺をよそに、羽美川は出ていく。

記念すべき部員さっそく出来た。　窓から外を見る。野球部、サ
ッカー部、　ラグビー部等さまざまな部活が活動している。
外からは快活に響く運動部の声がこの部室にも響いてくる。

「さて、明日からは妖精について勉強するかな」

妙な所で真面目な俺であった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0771z/>

FF部

2011年12月2日22時46分発行